

■小石元俊 蘭方医。山脇東洋を受け継ぎ、解剖の技術は抜群と言われ、私塾を開設して上方蘭学の祖になった。

こいしげんしゅん  
1743=

山城の桂村で、かつて酒井家の家老であったが父の代に浪人となった家に生れ、

徳川吉宗隠居1745= 2歳 :

幼時より才能が溢れ、父の示唆で医学を志すようになり、

1750= 7歳 : 一家で大坂京町堀千秋橋辺に移住。

徳川吉宗没・1751= 8歳 :

1752= 9歳 : 淡輪元潜に入門、元俊の名をうける。

山脇東洋解剖1754=11歳 : 山脇東洋が我が国最初の人体解剖をしたことを聞き、

大武政治批判1759=16歳 : 父、中風を病む。

大岡忠光没・1760=17歳 :

1761=18歳 :

1762=19歳 : この頃、後に第一の師とする独嚙庵に師事、第二の師慈雲に参禅する。

加賀千代句集1764=21歳 : 独嚙庵より有素の字をうける。父が死去。

蘭銭初輸入・1765=22歳 : この頃、母が手内職を始めて生計が立つようになったこともあって、西国漫遊に出発。

忠臣蔵大当り1766=23歳 : 独嚙庵が死去したが、そのまま漫遊して長崎まで達し、

久留米藩工事1768=25歳 : 兵法の極意目録を与えられる。

1769=26歳 : 西国漫遊より帰る。\*「西漕再功」を著して、医者を開業した。

1770=27歳 :

田沼意次老中1772=29歳 :

雨月物語刊・1776=33歳 : 母が死去。

1777=34歳 : 独嚙庵の墓碑建造。亀井南冥が訪問してきた際、南冥に、ライフワークとして着手した「元衍」の文が拙いと評されるや、家を撤して頼春水宅に寄寓、ついで京都移住して、第三の師となる皆川漢園に入門。

源内獄中死・1779=36歳 :

1780=37歳 : この年まで足袋を用いず。

山脇東洋門下の解剖に加えられるようになって経験を積み、

蘭学階梯・1783=40歳 : 西洞院出水に移住して結婚。橘南難らと伏見で刑屍解剖して「平次郎臓図」を作成。

意知刺殺事件1784=41歳 : 長男竜(元瑞)生れる。

蝦夷初調査・1785=42歳 : 入洛した杉田玄白を訪ねて質問、大槻玄沢が長崎遊学の途次訪問など、一流の学者らとの交流が始り、

田沼意次失脚1786=43歳 : 妻が死去。門人真狩元策を随え東遊し、江戸では大槻玄沢邸に寓居。「六物新志」跋成る。

寛政改革始・1787=44歳 : 玄白を訪問して、その養子伯元を伴い帰京し、大坂道修町に寓居したが、

1788=45歳 : \*京都大火で家屋焼失、「元衍」も焼失。新たに、京町堀坂本町で開業、{衛生堂}と称する。

初の横綱・1789=46歳 : 周防の斎藤方策が入門してくる。

異学の禁・1790=47歳 : 亡妻の姉琴と結婚。この年、平戸侯松浦静山を往診し、以後親交する一方、

ラスマン来日・1792=49歳 : 元瑞が篠崎三島に入門。この前後、片山北海・岳玉淵・中井竹山らと交流。

松平定信引退1793=50歳 : 岸和田藩主岡部侯の父の病を診る。

オランダ正月・1794=51歳 : 病氣療養のため城崎湯治。

ポルトガル来航・1796=53歳 : 大坂は斎藤方策に委ね、京都に移住、釜座竹屋町に隠居し著述に専念しようとしたが、

昌平饗始・1797=54歳 : \*その技術が広く知られて治療を希望する者が絶えず、希望により五丁四方を限り治療。

古事記伝・1798=55歳 : 三雲環善らの施薬院の解剖に都督となる。「薬院解男体臓図」成り、序文を作る。

蝦夷地直轄始1799=56歳 : 「賛身幹儀後贈星野良悦」を作る。田辺侯の召で田辺に往診。田辺侯(在江戸)再度元俊の治を求め、元俊東下

。元瑞を伴い玄沢に入門せしめる。この年帰京。この頃、橋本宗吉にパルヘイズ解剖書を翻訳せしめる。

伊能測量始・1800=57歳 : 田辺侯の召で三度東下し、帰郷。中風を患う。東下の松浦静山侯と大坂で面会。元瑞、皆川漢園に入門。

宣長没・1801=58歳 : 小康を得、釜屋夷川の家に移って、究理堂を起す。

一九膝栗毛始1802=59歳 : 「三方法典」の序文を作る。

アメリカ船来航始1803=60歳 : 清末侯参勤交代の途次伏見に元俊を召す。

ロシア来航・1804=61歳 : 丁野南洋の墓誌をつくる。

ロシア報復・1806=63歳 :

ロシア船狼藉・1807=64歳 : 病をおして建部侯往診。元瑞を派し、防衛・経済につき忠告。

フェートン号事件 1808=65歳 : 病勢悪化、左半身も不随となり、没した。

大徳寺孤蓬庵に葬る。